



全国高校生体験活動顕彰制度

地域探究プログラム

令和5年度報告書



全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長
日本赤十字社 常任理事

板東 久美子

ご挨拶

今年度も全国各地でオリエンテーション合宿が開催され、全国の高校生が多様な地域課題に対し主体的な行動・活動をしてくださったことに感謝申し上げます。1人1人の努力に敬意を表します。また、地方ステージ・全国ステージにおいても高校生ならではの発想と創造力を活かした素晴らしい活動や取り組みが発表され、同じ志を持った高校生同士の交流も含め盛況のうちに無事開催できましたこと、大変うれしく思います。本制度実施においてご協力いただいた関係各所の皆様に厚く御礼申し上げます。

「ちいぶる!」に参加したみなさんが、引き続き、自身に関わりのある地域や自然環境に愛着を感じ、様々な人々と協働しながら、その課題解決に向けた活動に取り組んでいただくことを期待し、それが新たな地域の価値や魅力の創造に発展していくことを願っております。

オリエンテーション合宿の事例紹介

学校・団体参加型

主催：国立曾爾青少年自然の家
期間：令和5年8月28日(月)～29日(火)
連携学校名：奈良県立添上高等学校 人文探究コース

合宿の内容

「総合的な探究の時間」の授業時数に本制度のカリキュラムを位置付けて実施しています。オリエンテーション合宿には、1年生が参加していますが、2年生(OR合宿修了者)が1年生のフォロー・アドバイザー役として一緒に参加しています。このような縦割りの活動が、両学年の学びを一層深めています。

事前に「特産」「伝統」「観光」「行政」の4つの観点から、曾爾村についての講義を学校で受けました。初日に行ったフィールドワークで得た学びを活かし、地域課題解決に向けて、2日目にお世話になった村の方々に提案を行いました。更に、フィードバックを得て、これまでの活動をふりかえり、各グループで地域課題への仮説や問いをまとめ、よりブラッシュアップしたプレゼン発表を行いました。

ここがポイント!

「地域資源とのつながるためのハブとなる団体との連携」

フィールドワークは、一般社団法人「そののわGLOCAL」という曾爾村と地域住民が協働して設立した地域団体が施設と各団体とのハブとなって連携協力しながら実施しています。「特産」では、トマト農家にて、特産品であるトマト生産者の話を聞き、トマトの収穫作業を体験し、選果場の見学、「伝統」では、曾爾村の獅子舞についての体験や歴史を学び、「観光」では、地域資源の価値を体感するためのインバウンド・国内向けの独自の体験ツアーのノウハウをもつそののわGLOCALに、村の魅力的なスポットを案内してもらい、「行政」では、移住定住を軸にした一般社団法人曾爾SUMMITから、移住にまつわる学びや空き家を見学するなどの体験をさせて頂きました。



個別参加型

主催：国立信州高遠青少年自然の家
期間：令和5年9月16日(土)～18日(月・祝)
連携先：株式会社クリケットファーム、上伊那農業高校グローバルコース

合宿の内容

昨年度より個別参加型にて実施しており、今年度は地域の伝統資源である「昆虫食」をテーマに県内外より高校生が参加しました。昨年度より参画いただいております、長野県が地元でもある一橋大学の伊藤勝人氏をファシリテーターに、フィールドワークでは、地域で最先端技術を駆使して食用コオロギの養殖を行っている株式会社クリケットファームや昆虫食開発及び販売を行っている上伊那農業高校グローバルコースの皆さんとの意見交換を実施しました。自然の家の敷地内を流れる川で実際に昆虫を採取してみたり、昆虫を食べてみたり…。野外炊事では、地元の野菜を使ったカレーを作って、夜は焚火を囲いながら振り返りと中間発表を実施しました。

ここがポイント!

「見て・聞いて・触れて・食べて五感を使って地域課題を探究」

なぜ「昆虫食」が地域で根付いているのか? 講義では、地域の歴史から現在の課題などを学びました。その後のフィールドワークでは、県外出身者の人がなぜこの地で食用コオロギの養殖を開始したのか? 歴史的背景など最初の講義の内容も踏まえて実際に5感を使って見学しました。その後は、コオロギやイナゴなど様々な昆虫食を実際に食べてみたり、すでに昆虫食の開発及び販売を行っている高校生たちと開発で苦労したことや楽しかったことなど意見交換をしました。グループで検討するときは教室とは違い焚火を囲って昆虫食を食べながら意見を話し合ったりと自然の家らしい五感を最大限に使用した合宿となりました。



地域探究プログラム 愛称の決定!

今後、広く多くの方に本制度の事業内容や取組について興味関心をもってもらえるよう、シンプルで親しみやすい、愛着のある愛称(ネーミング)を募集した結果「ちいぽる!」に決定しました。



【考案者】森愛佳さん(愛媛県立長浜高等学校)

【愛称に込めた思い】

「地域探究」+「プログラム」=「地域探究プログラム」だと感じたのでふたつの最初の2文字をとり、言葉をイメージしやすくしてみました。ひらがなにすることで親しみやすくなっていると思います。

「!」をつけることでこの活動の楽しさやおもしろさを表してみました。

令和5年度 実施状況

オリエンテーション合宿実施施設	27施設	地域探究アワード地方ステージ出場者	130名
オリエンテーション合宿参加者数	934名	地域探究アワード全国ステージ出場者	25名
実践活動報告書提出者数	239名		

令和5年度 全国ステージ結果

受賞者の報告書や当日の発表動画はこちらから確認できます。



個人部門

文部科学大臣賞受賞

出口 若菜(広島県立大柿高等学校)

人へ人へと…夢を繋ぐ～オリーブを核とした3世代が交流できる江田島市へ～

江田島市の地域活性化について、3年間実践活動を行いました。昨年度の同大会で審査員の方から、「市民を巻き込んで発信者を増やしていくことが大切だ」とアドバイスをもらい、今年度は、自身の考え(夢)を多くの人へ、人へと…繋げられるように、中学校や市役所主催のワークショップ等で、積極的に発表しました。その結果、中学生からは、前向きなアンケート結果をもらうことができ、市議会の定例会で一般質問されるなど、行動の結果が実りつつあります。今後は、活動を後輩へ引き継ぎつつ、自身も市の発展のために継続して活動をしていこうです。



国立青少年教育振興機構理事長賞

後藤 祐貴(静岡県立御殿場南高等学校)

放置竹林、竹あかり解決案～ウェブサイトで繋がる地域環境～

駿東地区の課題である「放置竹林」について探究し、竹林の整備作業やイベントへの協力、関係団体へのインタビューを通して、竹の魅力や利活用方法についての情報発信を行いました。また、学校内で竹をつかったライトアップイベントを開催し、放置竹林の解説や環境保全についてより詳しく知れる専用のWEBフォームやサイトを用意して一人でも多くの人に放置林の課題、活動について知ってもらう取り組みをしました。今後は自身の竹に対する思いや熱意を積極的に行動に移し発信していく予定です。



全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞

菊地 亜美(福島県立光南高等学校)

みんなでストレッチ!～手話を添えて～

市内の「要介護、支援者の増加」と「健常者の手話への理解度不足」という二つの課題を設定し、子育て支援施設や介護専門学校等を訪問して、幼児の成長の手助けになるストレッチ、高齢者に効くストレッチをインタビューしました。その後、自身の特技である手話を使った「手話歌」を課題解決の糸口として考え、手話とストレッチを取り入れた手話歌の動画を作成し、幼稚園での実践や専門学校からのアドバイスをいただく予定です。活動の結果について、アンケートを実施しより効果のある手話歌にしてくと意気込んでいました。



国立青少年教育振興機構特別賞

根本 菜々美(福島県立光南高等学校)

患者さんのリハビリが苦しくならない工夫について～リハビリを改善するために自分ができることは何か～

自身の経験からリハビリ患者のリハビリに対するマイナスな思いを前向きにするための取り組みを実施しました。理学療法士へのインタビューを行い、リハビリに対するポイントを把握した後に、如何にリハビリを辛くならず継続して実施できるか考えた結果、特技の絵を活用したカードゲームを考案し、家族や地域コミュニティで試行的に実践を行いました。また、今後も増加することが予想される海外からの移住者に対してもリハビリをすることが「苦しい」から「楽しい」になるアイデアや手助けできる工夫を自分なりに考えていこうです。



グループ部門

文部科学大臣賞受賞

大西 寅ノ介・中西 煌星・池本 新・安田 彩人(愛媛県立長浜高等学校)

「長浜」生き物好き聖地化プロジェクト～オンラインでみんなの心を長浜に～

地域課題である「人口と若者世代の減少」を解決するために、長浜高校にある「長高水族館」を“聖地化”するべく活動を開始しました。オンラインで全国の生き物好きコミュニティの作成や健康上の理由で外出が困難で実際に長高水族館に来ることができない方々にも個別にオンラインで水族館ツアーを開催しました。SDGsの視点も盛り込み、高校生ならではの水族館イベントとなり、マスコミなどにも取り上げられ想像以上の反響だったそうです。



国立青少年教育振興機構理事長賞

迫 朝陽(時任学園樟南高等学校)・東 琉斗(志学館学園志学館高等部)・野村 隼叶(鹿児島県立開陽高等学校)

つわぶき地域密着隊 喜入と育つ私たち、繋がり活かしてさぁ飛び出せ!

「おとな主体のまちづくり」ではなく、「若者が積極的に参画するまちづくり」を目指して令和3年より活動を行っています。今年度は新たな取り組みとして、中学生に人気のある地域の自習室のニーズ調査を実施しました。また、自ら地域のイベントに参加することでたくさんの大人と出会い、新たな課題も見つけることで、祭りの開催やマルシェの企画からの参画などが実施できたことで、さらに地域の方々と関係を築くことができたそうです。



全国高校生体験活動顕彰制度委員会委員長賞

豊田 彬人・宮内 寛人(山口県立防府高等学校佐波分校)

放置竹林の解決について～佐波バンブーブースでの活動の成果～

放置竹林の解消を目的に4班に分かれて活動を実施しました。放置されている竹を活用して、イベント班では流しそうめんやバームクーヘンの製作に竹炭製造を組み合わせて実施したり、食材班では竹を飯盒としてご飯を炊くボンボラ飯などを実施しました。地域の方々の知恵を借りながらではあるものの、班の仲間間で料理や工作などそれぞれ得意分野を大切にすることで、自分たちのアイデアを出し合って活動を楽しみながら実施できたそうです。



国立青少年教育振興機構特別賞

京田 汐月(富山国際大学付属高等学校)・嶋之内 心優(富山県立南砺福野高等学校)

魅力発信で地元を活気づける!～OUR snow との未来に向けて～

冬だけでなく夏もたくさんの楽しいアクティビティがある「あわすのスキー場」をもっと多くの人に知ってもらえる場所にしようという「あわすのスキーガールズ」を結成しました。イメージキャラクターの着ぐるみを作成して、実際にスキー場に来場した方々に名前をきめてもらいました。SNSなどを用いて魅力を発信したり、大手スポーツ用品店にブースを出展したりと、着ぐるみで高校生らしくたくさんの方々にPR活動ができたそうです。



金賞

根本 樹・松浦 依舞姫(北海道剣淵高等学校)

剣淵町をもっと知ってもらいたいです。～剣淵町観光マップ作成と剣淵いいもの広げ隊の活動を通して～

剣淵町の知名度が低いことが課題であると考え、新たな観光マップの作成をしました。まずは現行の観光マップについて町内外の方々にアンケートを実施して課題を見つけました。また、新たな観光マップには全国の観光マップで初となるであろう、高校生が実際に行った飲食店の感想など、高校生らしい若者の視点を取り入れることで、今までの観光マップにはない新たな剣淵町の魅力を分かりやすく、多くの方々に発信することができたそうです。



佐藤 由菜・鈴木 朱莉(福島県立光南高等学校)

んめー!減塩ラーメンを作ってはらくっち!～幸福一瞬肥満一生～

「福島県といえばラーメン」そして「肥満度が高い」。しかし「おいしいラーメンが食べたい」との思いから“罪悪感ない美味しいラーメン”を作るべく活動を実施しました。これには持病などで塩分制限がある方々にもおいしくラーメンを食べてもらいたい、また県民の健康意識も高めたいという思いも込められているそうです。試作を作る度に家庭科の教諭や友人からアドバイスをもらい再度検討し、SNSなどで地域の方々にも発信したそうです。



三浦 優依・松村 茉衣・星野 そよ風・松井 理子(群馬県立沼田女子高等学校)

誰もがいきいきと過ごせる地域づくりへの一歩～障害者と健常者が支え合って働く社会が当たり前になるために～

障がいの有無に関わらず、誰もが生き生きと生活していることがどんなに素晴らしいことなのかを多くの人に知ってもらいたいと思い、地域の障がい者福祉施設と連携してPR動画の作成を実施しました。若者にも興味をもってもらうために高校生自らが施設で体験した様子や直接施設の方々と話し合うことで様々な視点を取り入れました。PR動画は祭りで公開したり、ポスターを掲示したりと、より多くの方々に見てもらえるよう工夫したそうです。



阿部 夕花・萱澤 桜恭(兵庫県立洲本実業高等学校)

Wood Luckプロジェクト～みんなを笑顔に!持続可能な幸せサイクル～

昨年度より始動した「Wood Luckプロジェクト」は、獣害対策で伐採された間伐材を壁掛けボードや木鈴などにリメイクして地域のイベントで販売したり、各種ワークショップを開催したりすることで、獣害に関して知らなかった方々に知ってもらい、興味もってもらえるための活動です。イベント後は活動に関する木材についての問い合わせがあったり、アンケートで「もっと獣害について勉強したい」と前向きに考えてくれた方々もいたそうです。



全国ステージ出場者アンケート

オリエンテーション合宿は楽しく学ぶことができましたか。

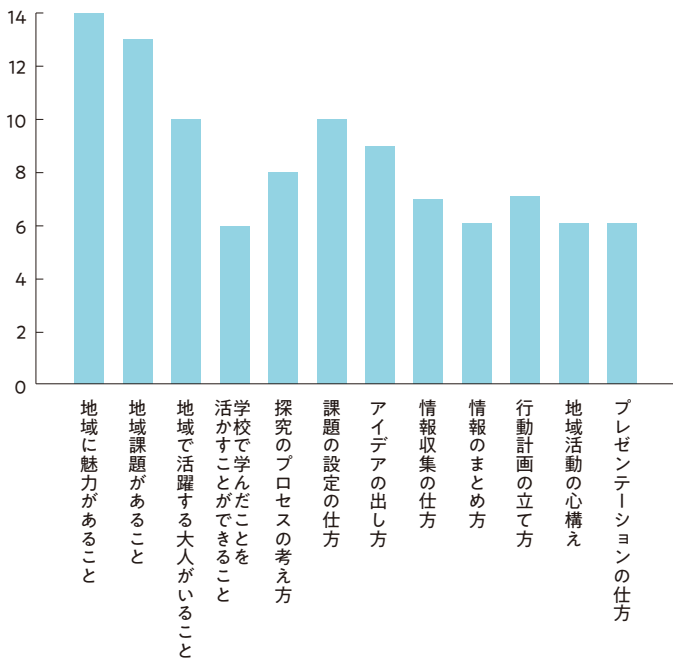


■ 十分できた ■ できた ■ 難しかった ■ 非常に難しかった

- 様々な地方の人と話したことによって知識が増え、会場の雰囲気が高かったから。
- 自分の意見を躊躇なく出すことができ、友達からの意見も聞くことができたから。
- ずっと地域に住んでいても、知らなかったことを知ることが出来て、楽しかったし、深く学ぶことも出来た。
- 仲間と多くの時間を共有できたから。
- 魅力的なプログラムの合宿で探究の本質を学べました。

オリエンテーション合宿で学習したと思う内容は何ですか。(複数回答可)

(回答数)



オリエンテーション合宿に参加して感じたことを教えてください。

- 新たな気づきや発見ができ、成長出来た機会だったと思います。
- 地域のことを全て知っているつもりだったけど、まだ知らないことがあった。
- 地域には問題もあるけど、それ以上に魅力があることを感じました。
- 初めて会った人達と交流して学校ではできない体験をできてとても楽しかった。
- たくさんアイデアを出し合い地域について深く考えることが出来ました。
- 地域の課題を見つけても自分にはどうすることも出来ないと思っていたが、実際に行動すれば地域に貢献することが出来ると気付きました。

実践活動を行って感じたことを教えてください。

- たくさんの地域の人と関わることができました。
- 1人で行動するのは難しく、皆で協力することの大事さを知りました。
- 活動をするには私たちの力ではできないこともあり沢山の先生方や施設の方、友人、家族などに支えられたからできたと思いました。
- 実際にインタビューしてみると、自分達の想像と違った意見などを聞くことが出来たので、勝手に決めつけるのではなく実際の声を聞くことが大切だと感じた。
- 地域に貢献することは市民の方々が応援してくれるので頑張ろうと思いました。
- 地域の方々が本当に優しく接してくださり、活動することがとても楽しかったです。また、広報活動では、チラシを受け取って貰えない悔しさも感じ、いい経験になりました。

全国ステージでの他の出場者や先輩サポーターとの交流は十分にできましたか？

- 話すだけでなく、発表のアドバイスももらうことができました。
- レクリエーションがあった事で親近感が湧いて、どの発表も興味を持って聞くことが出来たし、仲間の受賞を素直に喜べました。とても楽しい時間を過ごせました。
- 去年、仲良くなった子とも再会することができてうれしかったです。
- 先輩サポーターの方々みなさんが気さくに話しかけて下さり、緊張がほぐれました。もっと話したい!と思った。
- 情報交換や共通の趣味がある人など多くの方と出会うことができ、今でも連絡をとっている人がいる。

地方ステージや全国ステージに出場して感じたことを教えてください。

- 探究をしていく面白さや、楽しさをしれました。自ら進んで行動をする重要さをしれました。
- 自分の殻を破り堂々と発表できて自分の持っている力に新たに気づくことが出来た。
- 私たちの他にも沢山の高校生が活動していたことから沢山の刺激を受けアイデアを活かして活動したいと感じました。
- 今回の活動を通して、自分に自信を持つことができました。
- 何かやってみたいことや興味があるものがあるなら、一歩踏み出してみることが大切だと思いました。そのおかげで多方面からの意見を聞くことが出来たし、いろいろな課題に対して意見を持つことが出来ました。このような経験は今後の探究活動はもちろん、日常の中で活かす事が出来ると思います。
- アドバイスなどをたくさん聞き全国ステージに生かすことが出来ました。全国ステージでは、同じ高校生たちがそれぞれ活動している様子を見て、とても参考になったし、「ちいぶろ!」に参加してほんとに良かったと思いました。
- これまで、舞台上で発表するという経験がなくとても緊張しましたが、オリエンテーションを通して他校と交流することで、本番では自分らしく発表することができました。短い時間でしたが、様々な地域の様々な課題を見聞きすることができ、とても勉強になりました。

事業全体を通して得たもの(進路を考えるうえで役にたったこと、学んだこと、新しく挑戦したいことなど)があれば教えてください。

- 今後、福祉系の勉強をしたいと考えているので今回の活動を活かして誰もがいきいきと暮らせるために得意なこと不得意なことを補いながら暮らせる社会を支えるために活動していきたいです。
- 自分の考えを文にしてまとめる力がついたと思います。また、足りない部分をどうすれば補えるかを考えたり計画を立てたりする事で、前よりプレゼン力がついたと感じました。今後も自らが主体となって新しい探究活動に力を入れたいです。
- これからも、もっと地域のために頑張ろうと思いました。就職後も、地域のことを考えながら、自分の仕事や趣味で力になれたり、仕事をする中でも探究していきたいと思いました。
- 地域活性化についての活動は、やりがいがあって楽しかったです。なので、大学でもそういう活動ができる大学に行きたいと考えるようになりました。これからも広報活動などを続けていきたいです。それだけでなく、新しい活動も出来たら良いなと思います。
- 自ら進んで課題について調べ、解決策を見出し実行しようとする気持ちが生まれました。
- 私は将来看護師を目指しています。これから先もし壁にぶつかったときは、実践活動で培った考えを実行する努力で課題解決に向け励んでいこうと思います。

参加学校教員の声

- 「地域探究プログラム(ちいぶろ)」へのエントリーは実践活動報告書の量からなかなかハードルの高い挑戦ですが、体験を文章にまとめる力やプレゼンテーションの力を身につける上においてこの上ない取組であり、生徒の自己肯定感も著しく向上しました。また、全国ステージの2日間を通して、他校の取組を知ることで探究への考え方がより深化しました。3年連続で全国ステージへ出場できたことで、自信を持って探究活動を指導できる教職員の育成にもつながりました。

- 本プログラムを通して、数多くの経験を生徒はじめ、私たち教員もさせていただきました。生徒たちは、プログラム参加後、身近な課題を自分の事のように捉える姿がみられました。そして、課題を見つけたら、どのような過程で解決に向かうのか、どのような人たちが協力する必要があるのかなど、自ら考えるようになりました。また、地方ステージ・全国ステージでは、さまざまな地域の高校生や運営の方々と関わることで、人との繋がり大切さを身に染みて感じていると思います。これからも、多くの高校生が本プログラムを通して成長していくことを願っています。